

# ODNJ年次大会2019報告書

きづくーこえるーひらく 多様な実践者による共創

We will Rock You!  
このX-バーで良かった  
なと思う 関

いっぱい話し、  
いっぱい顔をお  
わせてくれた  
年次大会!! Shimji

とっても楽しい  
年次大会でした  
ありがとう♥  
NAKAYA

豊かな時間  
でした。  
Koji

作りあげていく  
楽しさも実感ほした  
マサ

エイエイ  
オーテンー!  
みわ

allが楽しかった。  
おめでとう  
マサ

2日間あったという間に  
最高のX-バー。2日間に感謝  
です。あがせ

少しはお役に立  
たのてはうか〜 ken  
楽しかったです!!

仲間がたくさん  
できて、本当に  
うれしいな!!  
まーとろ

楽しくすごせられた  
また作りた〜ぞ  
omがはった!!  
はしとろ

皆このX-バーが  
とてもおもしろかった。  
ありがとう!!  
マサ

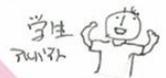
うーん、もったいなく  
よな、これが精一杯  
だったのか...ササキ

参加者の運営スタッフと  
2倍楽し、夢心に感謝  
です。あめつとむ  
さん! 山田

こういった場がい  
作れるのが中野先生の  
底力ですね。楽しかった!  
すはる\*

たくさんの方がODJに  
ついて学んでいることを  
実感できるいい機会でした!  
学生アミダ あかね

とても楽しかった  
です!! 大人のあの  
本気が感じられて、  
とても良い機会に  
なりました! リョウタ



頼もしい仲間  
感謝!!  
参加してくれた  
全ての人にありがとう♥  
IIエ

感謝と幸せの  
気持ちでいっぱいです。  
ありがとう 瀬戸

1日目の連日は  
I am a guest  
のふたつ感じ  
ましたか。2日目  
はごわりの  
part of us でした  
はつと

初めての年次大会に  
参加させていただき  
ありがとうございます  
♡ Miho

とても楽しかったです!!  
準備も当日2日間も  
ずっと一糸者につくりあげていく  
感じか おもしろくて楽しんで  
暮せました♥

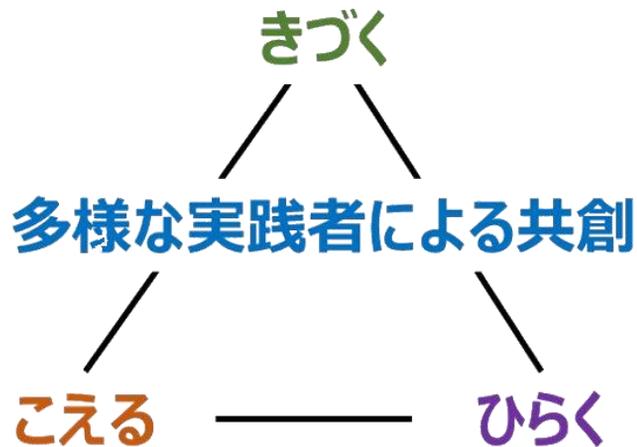


年が17の運営  
委員会との話し、  
2日間の実行、とて  
楽しく共創されました。  
顧問のTaekoさん  
副会長のAnneyca  
本宅におつかい様!  
中村

ODNJ年次大会2019

8.24-25 南山大学R棟





組織開発「Organization Development=OD」は、組織の人や関係性に光をあてることで、組織に関わるすべての人々が幸せになるために探求された理論や事例が結集された学問領域です。ODNJは、（経営者／内部実践者／コンサルタント／研究者）がネットワークでつながり、ともに学び、効果的で健全な組織づくりに向けて協働するコミュニティです。

本大会では、立場も年齢も性別も、居場所や考えさえ違うわたしたちが、互いから学び、理解を深めながら「Use of self」と呼ばれるOD実践者の実践スキルを「体験から学ぶ」ことを目的とした2日間のワークショップを行いました。

様々な参加者がその場で協働することで、わたしたちがみな「自身の枠組み」について探求し、体験をOD実践スキルへと昇華し、次への一歩につながる機会となるような内容でした。また「あなた-と-わたし」の関係性が、「わたしたち」となり、そのつながりを以て、世界にODの実践と幸せの輪を広げていくことができることを願ったワークショップでもありました。

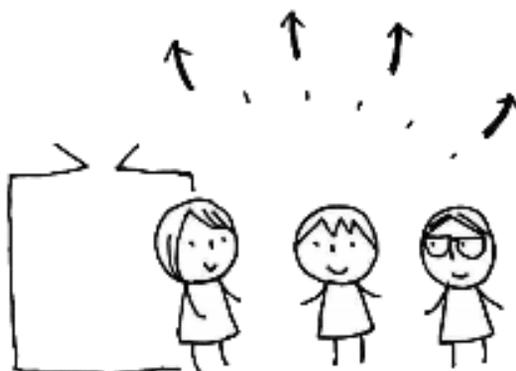
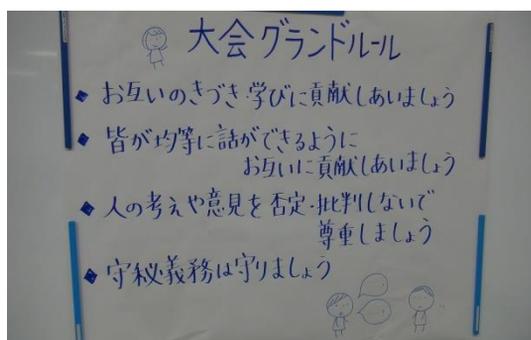
大会後には、ODNJ九州支部をめざした分科会の申請が行われたり、東京分科会が立ち上がったたり、新たなつながりでの挑戦が始まりつつあることなど、たくさんのご連絡を頂き、大変、嬉しく思っております。

ご参加くださった皆様、準備くださった運営委員の皆様、学生アルバイトの皆様、ご協賛・ご共催の皆様、「わたしたち」となってください、ありがとうございました。

2019年8月  
ODNJ年次大会2019 大会運営委員長  
高橋 妙子

# 2日間のタイムテーブル

日時	テーマ	備考
24日（土）		
10:00～12:00	オープニング&しりあう	
13:00～18:30	わかちあう	分科会
19:00～21:00	深める	懇親会
25日（日）		
10:00～12:00	つながる	
13:00～16:30	つくりだす	
16:30～17:00	クロージング	



# しりあう

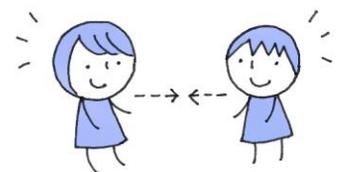
「しりあう」は、開会あいさつからスタートしました。中部が支部になったこと、そして大会テーマなどを、高橋たえこさんがリラックスしたトーンで語り、大会の雰囲気がつくられていきました。

最初の取り組みは、名札に「私たちがこの大会にできること」と大会の目標（きづく・こえる・ひらく）を書いて、3人組で共有しました。受け身で何かを教わるのではなく、参加者全員が大会への貢献に目を向けるきっかけとなる対話がおこなわれました。

次に140人全員が輪になって、名前と今の気持ちを一言話しました。みなさんの顔をzoomにつないだiPadで撮影して、それをプロジェクターにも表示しました。みなさんの思い思いの一言（わくわく、ドキドキ、楽しい！などなど）があふれました。

そして、全員が会場を歩き回り、ストップをかけたところで出会った4人組での対話をおこないました。問いは「あなたにとってODとはどういうものですか？」を2ラウンド、「わたしたちはこの大会をどういうものにしていきますか？」を1ラウンドおこないました。多様なバックグラウンドを持ち、いろいろな形のODへのかかわり方をしているみなさんが、とても熱心に語り合うことで、会場全体にあたたかい一体感が生まれ始めたセッションでした。

（佐々木）





## 発表1 サステナブル、SDGsを自分ごとに一組織開発で進める持続可能な組織づくり

笠井 崇 (株式会社ビジネスコンサルタント フェロー)  
山田 有佳 (株式会社ビジネスコンサルタント ESB本部 探索事業開発チーム 主査)

冒頭、笠井さんから、身近なSDGsの事例としてペットボトルをやめて「マイボトル」にしたエピソードを提示した瞬間、参加者みなさまの「自分ごと感」が一気に高まりました。その後、「企業経営とサステナビリティ」をテーマに、個別の事象を全体システムとして捉えることの大切さが提示され、参加者それぞれSDGsの17のゴールから1つ選択し、「私や私たちの組織で貢献できることは何か」について会場全体で対話がなされました。(澤地)



## 発表2 中堅企業におけるマネジメント研修を要とした組織開発の展開の実際

土屋 耕治 (南山大学)  
廣田 文將 (株式会社マネジメントパートナー)

すでにある階層別研修をどのように組織開発的活動にするのかという点について、研究者と実践家とのコラボレーションで発表が行われました。

研修の影響として、実態をベースにしなが、一緒に考えていくという関係(対話の場)を多く作るようになったこと、そのためには、ふりかえりの枠組みの提示(起きている事柄を丁寧に分析する)と、研修自体の構造と現場への展開が相似形であることが要点である可能性が指摘されました。

前提となる組織の状況や、他への展開のために詳細を聞く質問がなされました。(土屋)



### 発表3 幸せな人づくり組織づくり～最新のAI（アプリシエイティブ・インクワイアリー）動向についての報告とその適用

渡辺 誠（サクセスポイント株式会社）

まずサクセスポイント株式会社の渡辺誠氏より「幸せな人づくり組織づくり 最新のAI動向とその適用」として、ポジティブであることの価値や個人の幸せづくりに果たすAIの役割などが発表されました。またWAIC（The World Appreciative Inquiry Conference）での話題、ダイアナ・ホイットニー来日時の様子も紹介され、参加者からは“AIを継続するためには？”、“社員の幸福度を測る指標は？”など次々に質問が出されました。（柘植）



### 発表4 One「1つになる」ということ

近野 あけみ（F2F株式会社）

近藤 富雄（株式会社デンソー 大安製作所 AD&ADAS事業部 AD&ADAS製造部 第2生産技術室）

2013年から継続的に行われているデンソーの取り組みについて報告がなされました。価値創造に向けたロードマップが紹介され、どのような人材を育成していく必要があるのか、それをどのように展開していったのかが紹介されました。「人を変えることはできない、でも、変わることができる」という考え方のもと、気づきが促されたり、様々に議論する場が設定され、関係が動き出す様が紹介されました。タイトルにもある「1つになること」へ向けた様々なレベルにおける細かな取り組みを知る機会になったと思います。（土屋）



## 発表5 「最初は、やる気のない人をあぶりだす活動だと思っていました」 —IT会社における約1年半に渡る対話の実践

高橋 顕治  
松本 加奈子

(株式会社オーグス総研) +現場でされた人のナマ声(\*\*\*さん)  
(組織クオリティ・デザイン・ラボ)

1年半にわたって取り組んだ、職場の対話の様子や記述の実例を数多く提示(会場限)いただきながら、現場で起こっているリアルに迫りました。対話に取り組んだ側の職場スタッフの方からも会場で直接赤裸々に語っていただきました。「取り組み始めた時、実はこう思っていた。」「取り組みを進めていく過程で、見方がこう変わってきた。」「しかし、今でもこう思っていることもある。」、と社内実践者のはたらきかけがどう見えていたのか、当事者の惜しみない語りに、参加者は真剣に耳を傾けていました。(澤地)



## 発表6 地域活性化における組織開発活用の可能性

谷田貝 孝(宮崎大学 地域資源創成学部)

平成、令和の時代がどういう時代かという考察から、組織開発の切り口の大切さが紹介された後、宮崎大学における地域活性化の取り組み(「宮大ふるさと探検隊」プロジェクト)が紹介されました。具体的には、大学を足がかりとして、地域に関するナラティブを変化させる試みが紹介されました。

この取り組みを通して、集団的効力感がどのように高められるのかを引き続き検討していくことが伝えられました。対話の中でも、今後の展開への期待が語られていました。(土屋)



## 現場と産業保健師の協力による職場改善の試み

### 発表7 オムロン株式会社の研究開発部門における取り組み事例

宗田 靖男 (オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー  
商品事業本部コントローラ事業部 第1開発部 部長)  
(甲南大学経営学部)

北居 明  
多湖 雅博 (新潟医療福祉大学医療経営管理学部)

甲南大学の北居氏、オムロン株式会社の宗田氏による「現場と産業保健師の協力による現場改善の試み」からは、産業保健師が普段から職場で活躍する様子や職場に起きた大きな変化、働き方改革の改革などについて発表があり、その後の対話セッションでもこれらの話題で対話が継続するほど参加者の興味を喚起したようです。(柘植)



### 発表8 Next Will 3.0—ホテルにおけるサービス・クオリティ向上への取り組み

松本 加奈子 (組織クオリティ・デザイン・ラボ)  
端野 愛 (三井ガーデンホテル 銀座プレミア)

サービス・クオリティの評価基準に照らして「現状とこれからのギャップ」を現場メンバーで共有することからスタートした取り組みは、社外のサービスを体験するなど視点を広げながら、もう一段上の顧客体験と提供価値を「デザイン」・「言語化」し、コアチームの活動と一対一のコミュニケーションによる当事者意識の醸成を通じて「ホテルの勤務形態を乗り越えた協働」のプロセスを進めました。参加者からは、より価値の高いサービス行動を組織でどのように形成していくのかについて活発に質問や意見が出されました。(澤地)



## 発表9 ティール組織の観点から「関わりあう職場」を考察する — ネットヨタ南国の事例から

山崎 正枝（法政大学／山崎正枝人事労務管理研究所）

ネットヨタ南国の取り組みは、ティール組織の観点からどのように考察できるのかという報告でした。

発表者の山崎氏は、著書『走らないトヨタ：ネット南国の組織エスノグラフィ―』で、ネット南国の組織を、関わりあう職場のデザインという観点から丁寧に考察しています。ネット南国の様々な仕組みや考えなどを、ティールの観点から見直した結果、仕組みによってはティールとは言い切れない部分があるものの、目的がティールであるとなっていくという考察を加えていました。進化・自己革新の仕組みがどう埋め込まれているのか、ということが要点のように感じました。（土屋）



## 発表10 「部下をコーチする」ことで組織の成功循環モデルを実現する

北方 伸樹（株式会社オフィス・アニバーサリー）

株式会社オフィス・アニバーサリーの北方氏より、「部下をコーチする」ことで組織の成功循環モデルを実現するためのプロセスについて、企業の実例に基づいて発表されました。参加者からは「実践するうえで、上司のコミュニケーションスタイルの影響は無いか」、「時間の確保について」、「部下の意見を否定せずに理解を促すには？」など現実的かつ実践的な質問が多く出されました。（柘植）



## 深める

大会1日目の締めくくり企画として「深める」のセッションが南山大学のリアンというカフェテリアにて、19時～21時に行われました。会場には、参加者が全国より持ち寄ってくださったお酒（日本酒、焼酎、ワイン）が何と30本もズラリと並び、参加した約130名の皆さんとでおいしくいただきました。

懇親会でも、新たな人と出会って対話することを通して1日目の気づきや学びを深めようというねらいのもと、（乾杯での歓談の後に）4人組での対話が2ラウンド実施されました。通常の懇親会では、知り合い同士で歓談することが多いと思われませんが、このセッションでは初めて話す方と4人組になって関わっていただけました。

懇親会の最後には、サプライズ企画として、ボーカル永石信&関智一、ギター中村和彦&土屋耕治、ドラム澤地慶光、そして皆さんの鳴り物とダンスで、「We Will Rock You」「リンダリンダ」「世界で一つだけの花」の3曲で盛り上がりました。

このセッションでは、アルコールも入った和やかな雰囲気の中で、全国から集まった組織開発の実践者・研究者たちが自由に意見を交換し、親しく交流ができました。参加者からは、「楽しかった」「同様の集いをまた行って欲しい」との声も多く聞かれました。（加藤、中村）



# 深める



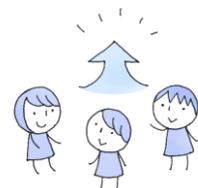
# つながる

あなた、わたしにとって大切な・大切にしたい価値観ってなんだろう？  
ひとりで感じたことから参加者の感じたことを聞いたときに生れるハーモニーを体感してほしいなあと思い、「わたしが大切にしたい・している価値観は？」のワークをやってみた。参加者の考えている表情、グループメンバーと対話をしているときの素敵な笑顔を見て、自分も参加したかったなあ心の中から思う時間だった。やっぱり、笑顔で自分の思いを語り相手の思いを聴いている瞳は眩しかった。（菱川）



# つくりだす

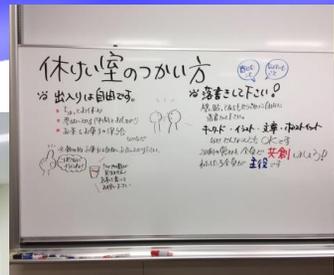
今の現実や目の前の自分をひらき、新たな未来に向けてひとりひとりが小さな一歩を踏み出し、こえていくためのつながりを生むことを狙いとしたセッションでした。参加者は対話を一時も止めることなく、お互いに大切にしていることをわかちあい、未来への夢を語り、真剣に仲間の話に耳を傾け、ひらき、つながり、自分達を縛っている枠組みを超えて未来を描き、未来の共創に向けてそれぞれができる一歩を見つける場となりました。(百野)



## 休憩室 & 保健室

オープンな部屋になるよう、ハーベストや気づきの落書きが出来るように、模造紙を壁と机いっぱいに掲げました。また、お茶やコーヒー、お菓子、そして、参加者から頂いたポットラック品（お菓子などを全国からご持参頂きました）を、並べました。休憩時間やセッション中でも、少しひとりになりたい方、なにか実りある気づき（ハーベスト）を感じた方が、自由に食べたり描いたりして楽しんでいられました。隣には保健室も用意しましたが、気分が悪くなる方はおらず、良かったです。（西森・伊藤・木下・水越）

たくさん、ありがとう♪



新潟から大阪、北陸、九州まで、並べきれないほどの銘品♪ 本当にありがとうございました！（広報・川内）

## クロージング

「わたしたち」の、これからの一步をメッセージカードに描き、全員で「わたしたち」のオブジェを完成させました。笑顔いっぱいのクロージングとなりました。



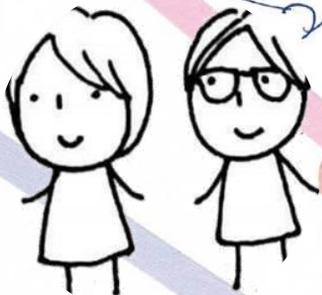
全体写真  
撮影者  
(広報：中谷)





中部の仲間を応援！  
すっぴんバニー - ひいたん！  
LOVE!! じいちゃん

準備の過程とその他OD  
でした。楽しい時間  
ありがとうございました！  
そして「産業保健」×「OD」の  
芽が出ました。大進歩！  
まか



You are one of us!

中部に加入してみんなに  
恵まれた最高でした。  
やれたこと、おもしろいこと  
やらせてもらったHappyです！  
ドンピシャ！ さゆちゃん。

セリヤンが感動  
おめでとう！！  
お二人の愛の  
きっかけをありがとう！！  
Anney

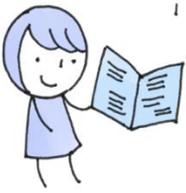


みんな、大好き♪  
楽しかったね。  
ありがとうをいただきました♡  
フタカリから  
応援のメッセージを  
TAEKO

ご参加のみなさまにとって、  
本冊子が「わたしのパンフレット」になりますよう、  
書いたり、描いたり、色を塗ったり、出会った誰かにメッセージをもらったり・・・、  
大会中はもちろん大会後も、自由楽しんでいただければ幸いです。

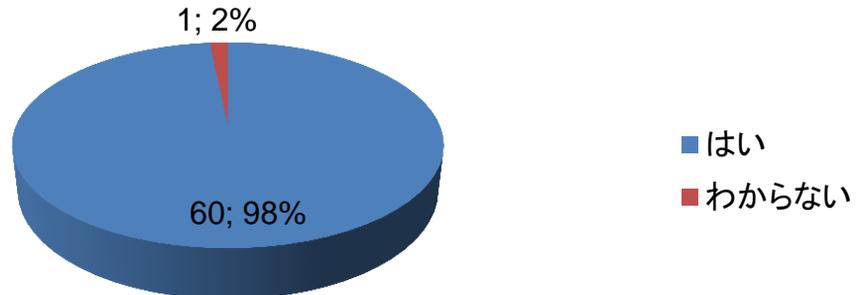
大会運営委員一同

大会主催：特定非営利活動法人 OD Network Japan



## アンケート結果（n=61） ※一般参加者 115名中（回答率53%）

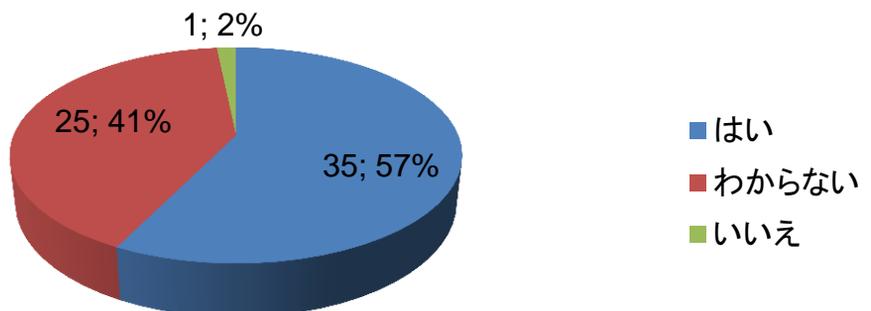
Q, この大会中に「気づく」体験はありましたか？



Q, それはどのようなことでしたか？ [一部回答抜粋]

- ・まだまだたくさんの仲間がいること。 ・ 鎧ということば（自己開示を阻むもの）
- ・自分で自分の枠組みを限定していたことに気づきました。
- ・対立を対話を通じて第三の解決策を生成するなど、数多く気づきを得ました
- ・中部支部の熱量のすごさ。自らの実践不足の再認識
- ・対話が広がると、その分可能性が高まると実感
- ・自分の枠。ODはわかる人にしかわからないという、思い込み。  
わかってもらうために、同僚や上司、部下、部門に言葉で伝える働きかけを  
どれだけできていたのか？と自分に問いかけることができた。

Q, この大会中に「こえる」体験はありましたか？

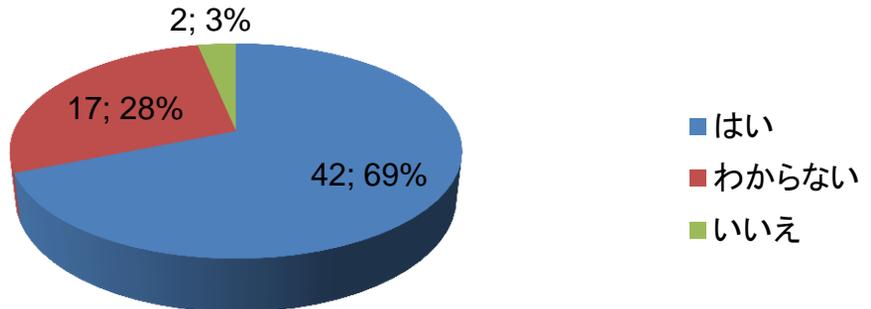


Q, それはどのようなことでしたか？ [一部回答抜粋]

- ・枠組みをこえて、一步踏み出す具体策と勇気を得ました。
- ・共に越えようと思わせてくれる勇気をいただきました
- ・自己開示。自分が何に苦しんでいるのかということについて、素直に打ち明けられた。  
結果、勇気づけられたり、仲間ができた！
- ・なんのためにODやってるかという継続的な問いが今後超えさせてくれると思います
- ・自分が考えていることが他の人とつながった感覚を得ました。事例の共有だけでは  
得られなかったことだと感じています。
- ・これから実践現場で気づくことと思っている ・ こえられるかはこれから。

## アンケート結果 (n=61)

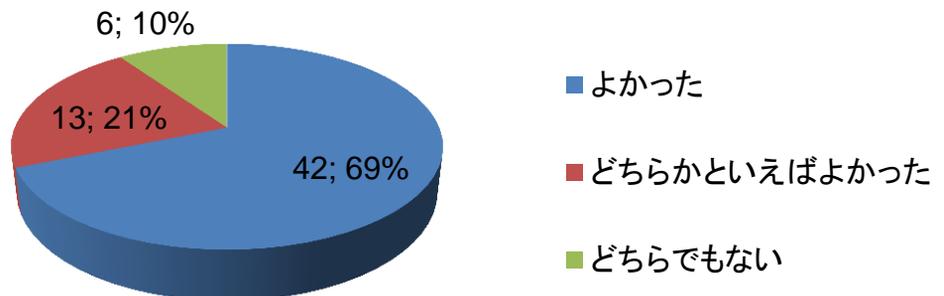
Q, この大会中に「ひらく」体験はありましたか？



Q, それはどのようなことでしたか？ [一部回答抜粋]

- ・グループワークでのシェアに際に、真っ先に手を上げ自分の意見が言えたこと
- ・自己開放することで対話が開いていく感覚があった
- ・夜の懇親会で弾けた
- ・同じ志を持っている仲間がいるとしたこと
- ・東京でもODNJを介して志を同じくする人を探す場を作る
- ・様々な仕掛けが、みな的心をひらいてくれ、安心な場になっていきました
- ・多分、気づいたことで今後開くと思います

Q, 大会運営について教えてください



Q, 8.どのような点でそう思われましたか？ [一部回答抜粋]

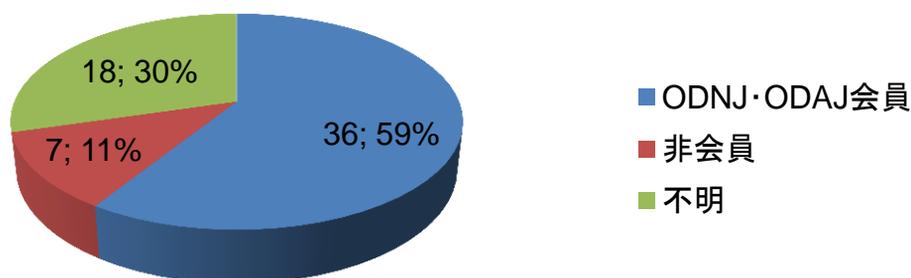
- ・自然かつ心地よさ。
- ・とにかく巻き込まれた！他人事ではなかった
- ・組織開発を学ぶ場ではなく、組織開発をする場として設計されたこと
- ・適度に任せる距離感。様々な場をつい、クスツとしてしまうようなユーモア交えて進む進行
- ・段取り良く、特に学生にヤラサレ感がなく感じ良い
- ・自分たちの手作り感が前面に出ていた
- ・実行委員会が楽しそうでサイコー！
- ・土日フルに使えるのは男性視点かと思いました
- ・構成は良かったと思うが、詰めこみ過ぎだった感じもある
- ・時間は足りなかった(テーマにバラツキが出て、深いところはまとめるのに時間が必要)
- ・床に座る時間が長いのはつらかったですが、対話の時間がしっかりあることは価値を生んでいると思いますし、ODらしいと思います

## アンケート結果 (n=61)

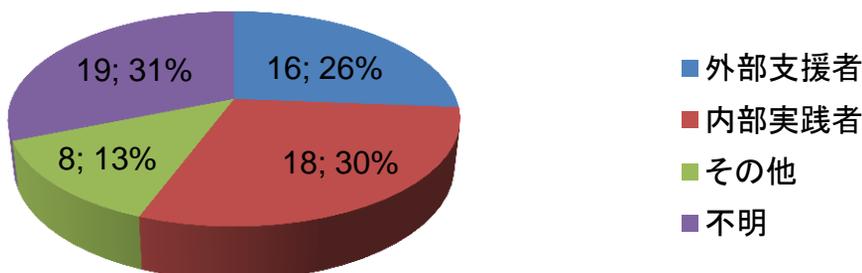
### Q, ODNJ年次大会に期待することはありますか？〔一部回答抜粋〕

- ・初参加、初体験でとても良い場となりました。大変ありがとうございました。  
これからも質の高い実践と振り返りをこれでもかと体験できる場であってほしいです
- ・実践的学びと同志創り ・深め合うをさらに深めたい
- ・変化し続けるコミュニティであってほしいな
- ・今回のように対話がたくさんあると嬉しい。グラレコをゆっくり見る時間が少なかった  
ので、もう少し時間があれば良いと思う。
- ・選択式であっても、しっかりと内容を持ち帰れるようにして貰いたいです（資料含めて）  
（…写真がNG、参加者が多くては入れない、モニターと文字が小さくて見えない…）
- ・少人数にて深く話す機会も欲しいです。少々会場がざわざわして、深く考えたり、  
時間が短いので、相手の話をじっくり聞く時間が少なかったかなと思いました
- ・「年次大会」のイメージをどんどん壊していくこと（今回の年次大会はとても  
チャレンジが多くて、気づくことがたくさんありました）
- ・今回は中部支部ならではの気もするし、1日半の対話は長いかもしれないけど、対話  
中心は今後も期待したい
- ・運営のみなさま、心を込めた運営ありがとうございました！ステキな夏の一日になり  
ました！来年は会員になり、参加か運営委員をやりたいと思いました！

### Q, 回答者の会員区分



### Q, 回答者の立場



## 共催・協力・協賛・運営委員

本大会の開催にあたり、多くみなさまからのあたたかなお力添えをいただきました。  
改めまして、心より感謝申し上げます。

### 【共催】

南山大学人間関係研究センター

### 【協力】

ウサミ印刷株式会社

### 【協賛】

パンフレット掲載

### 【ODNJ年次大会2019運営委員】

大会運営委員長：高橋 妙子

サブリーダー：百野 あけみ

広報・パンフレット：川内 理恵 澤地 慶光 りんどうまき(イラスト)

「しりあう」：佐々木 泰幸 赤木 雅樹 三輪 東志夫

「わかちあう」：土屋 耕治 澤地 慶光 水越 真代

西森 真紀 山羽 晴子 柘植 真志

「深める」：菱川 慎司 加藤 兼善 永石 信 中村 和彦

「つながる・つくりだす」：菱川 慎司 百野 あけみ 川上 雅幸

伊藤 美保 木下 芳美 瀬戸 美子

受付・誘導：関 智一 菱川 慎司

会計：加藤 兼善

休憩室・保健室：西森 真紀 水越 真代

記録：中谷 典敬 りんどうまき

会場設備・ロジ・ランチ：土屋 耕治 西野 靖江 瀬戸 美子

当日スタッフ：北方 伸樹 山梨 嘉代子 南山大学学生スタッフ

## むすび（振返って）

多くのご参加、そして、過半数を超えるアンケートによるふりかえりにご協力くださいまして、誠にありがとうございました。

本大会準備のキックオフは、2018年10月に行われました。異業種で日程の合わない運営メンバーは、それでも計11回の準備会議を行いながら、大会当日を迎えました。

大会当日、わたしたちは互いを信頼し、役割を楽しんでいたように感じます。そして、大会後には、アンケート以外にも、つながったよ、はじめようと思っているよ、というご報告や感想を多々頂くことができました。

私たちは、このエネルギーは何だったのだろうか、今やっとふりかえっているところです。ODとは何だろうか、と考えつつ、わたしたち自体がODを実践し体験することができていたのかもしれませんが、喜びも反省も多々ありますが、このような機会を頂きましたことを、心より感謝申し上げます。

本大会は、大会に集うすべての人が、大会後に何かをやってみる、一步踏み出してみることを願って運営されました。みなさまがお持ち帰りになった名札と大会パンフレットが、その一助になればとてもうれしいです。よろしければ、大会パンフレットをパラパラめくりながら、あの二日間の気持ちや考えを味わってみてください。31ページ「その後のわたし、わたしたち」に大会後から今までを振り返って、やってみたこと、一步踏み出してみたことを書き足してごらんになるのもよいと思います。

大会の場にいた、どなたにとっても、本大会の体験が長く尾をひき、そこから生み出された何かが社会に有益なインパクトを与えてゆかれることを願っております。（運営委員一同）